オートプシー・イメージング（Ai）第七弾：多死社会の到来で多様化するニーズに対応するAiの最前線

Scene Vol.12

Ⅳ　地域医療におけるAiの最新動向

2. 過疎地におけるAiの現状と課題

國塚　久法　雄勝中央病院脳神経外科

当院の状況

当院のある秋田県湯沢雄勝地域は，県の南東部に位置し，周辺人口約6万3000人，高齢化率は36.8％であり，高齢化率が34.6％で日本一の秋田県の中でも高齢化，過疎化が進んだ地域である。病床数は380床，時間外の救急外来受診患者数が年間約1万人，救急搬送数が年間約1400台で，地域の基幹病院である（**図1**）。本稿では，当院での死亡時画像診断（autopsy imaging：Ai）の現状について述べる。

当院でのAiの状況

2015（平成27）年度（2015年4月～2016年3月）の当院のAi件数は53例であった。年齢は36～100歳（男性35例，女性18例，平均年齢79.3±14.0歳）で，80歳代が24例（45.3％）で最も多く，80歳以上が33例（62.3％）で6割以上を占めた（**図2**）。

内訳は，来院時心肺停止（cardiopulmonary arrest：CPA）状態で搬送された例が41例（77.4％，内因39例，交通事故2例）で最も多く，次いで警察からの依頼が7例（13.2％），入院中の急変が5例（9.4％）であり，5例のうち3例は，医療事故調査制度が始まった平成27年10月以降であった（**図3**）。

CPA搬送例のうち，内因39例の内訳は，心臓関連死と判定されたのが24例，画像上病変を認めたものが8例，状況と検査結果から判定したものが6例，不詳が1例であった（**図4**）。

当院のAi施行例の特徴として，高齢者，CPA搬送，基礎疾患のある人，警察からの依頼，独居で，経過や通院歴などの情報が少ない人が多かった。

図1　当院の状況

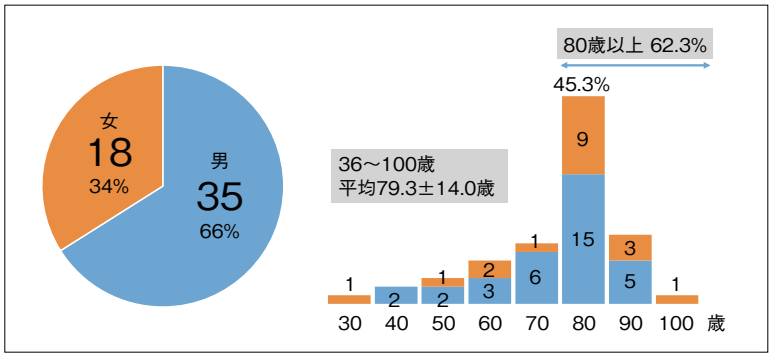

図2　平成27年度のAi件数：53例

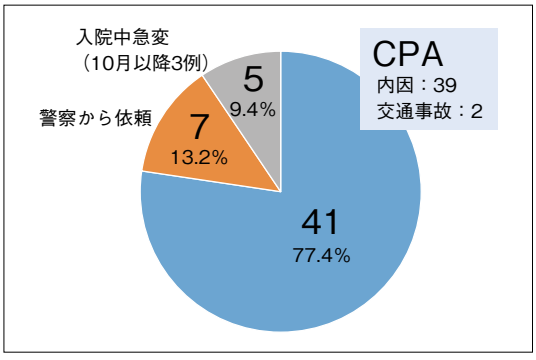

図3　内訳